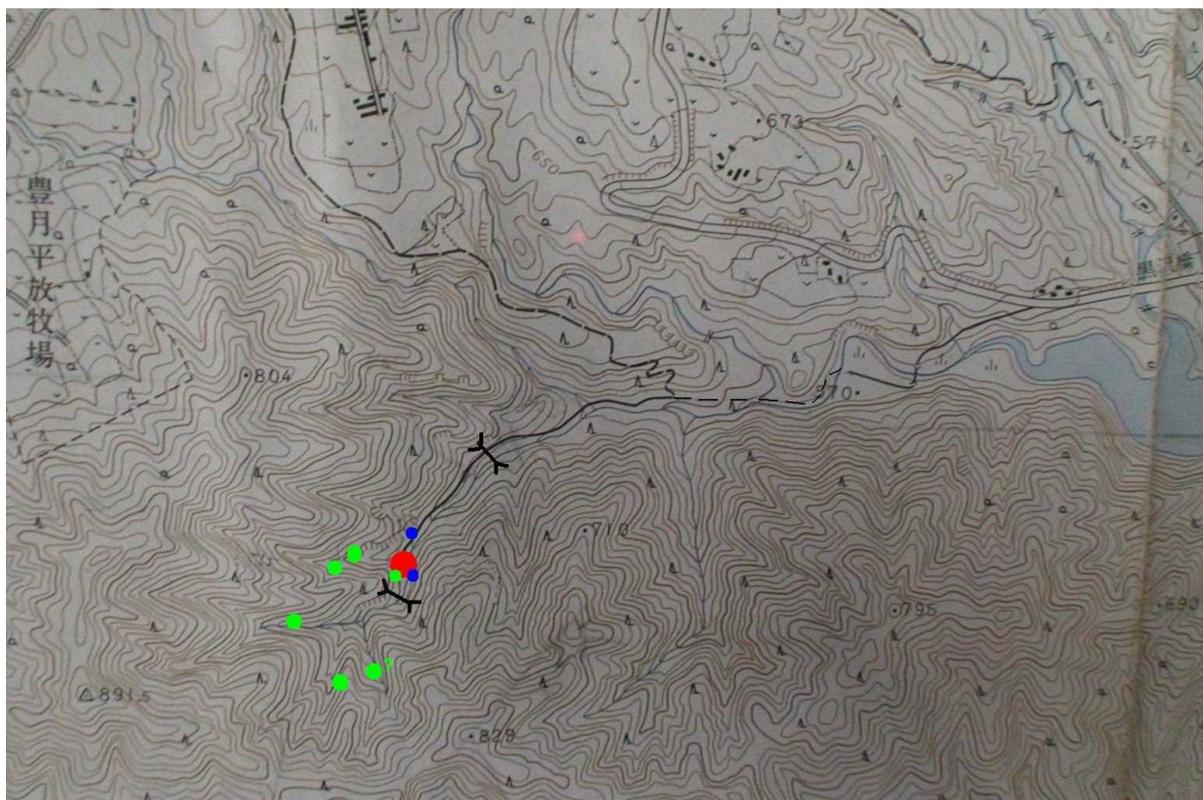


## (53) 天上沢(てんじょうざわ) 鉦山跡

栃木県塩谷地区にある。金銀鉦床に属している鉦山であった。参考文献(1)によれば、「鉦床は含銀銅鉛亜鉛石英脈で、母岩は石英斑岩および花崗岩である。数本の平行脈よりなり、・・・」

玉生から東荒川ダムを目指して北上していく。黒川橋から約300m当りで左側に側道がある。この側道を進んでいくが、そのうちに林道は川で切断されている。橋はない。地形図中にある数値「570・」の所である。ここで車を降りよう。林道は沢の先で伸びている。沢を渡って、林道沿いに進み、沢を進んで行く。そのうちに沢を左に見るしっかりとした林道に入っていく。車を降りてから約1.2kmで、地形図中の赤丸に達する。鉦山跡である。この付近には幾つかの鉦山遺跡がある。また、坑口も幾つかある。

ここに至る約400m手前に、大きな砂防ダムがある。ここから沢を遡って探査をした結果、幾つかの良好な標本を採集できた。赤丸の先で沢は幾つかに分れている。各沢に坑口跡がある。ズリらしいものもある箇所もある。沢を丹念に見ていけば、今でも転石として黄銅鉦、黄鉄鉦、閃亜鉛鉦、方鉛鉦の標本は十分に採集できよう。



赤丸が鉦山跡。緑丸が坑口。青丸が鉦山遺跡。付近の砂防ダムも記している

地図 国土地理院2万5千分の1地形図「高原山」

探査日 2010年3月、その他の日

参考文献

(1)「日本地方鉦床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、1973年。

## 鉾山跡写真



黒沢橋の先にある分岐道。左側へと進む。



横木が幾つかある箇所が坑口跡。この坑口内が源泉であろう。左側に勢いよく水が流れ出している。左端中央にある白い長方形は砂防ダム。



上の坑口跡の沢の対面近傍にあった鉾山遺跡。上の坑口跡からよく見える



前掲している坑口跡の右側の沢を登った。途中トロッコの車輪を見つけた。この上流に必ず坑口があろう。それらしい跡はあったが。

天上沢を真っ直ぐに進むと、大きな砂防ダムがある。これを乗り越えて探査を行った。坑口跡は今の所見つけられなかったが、沢に転石として、黄銅鉱石を含有する石を幾つか見つけた。それほどの標本でもなかったので採集はしていない。

## 採集鉱物写真



5 mm 立方の黄鉄鉱結晶が幾つか見える。



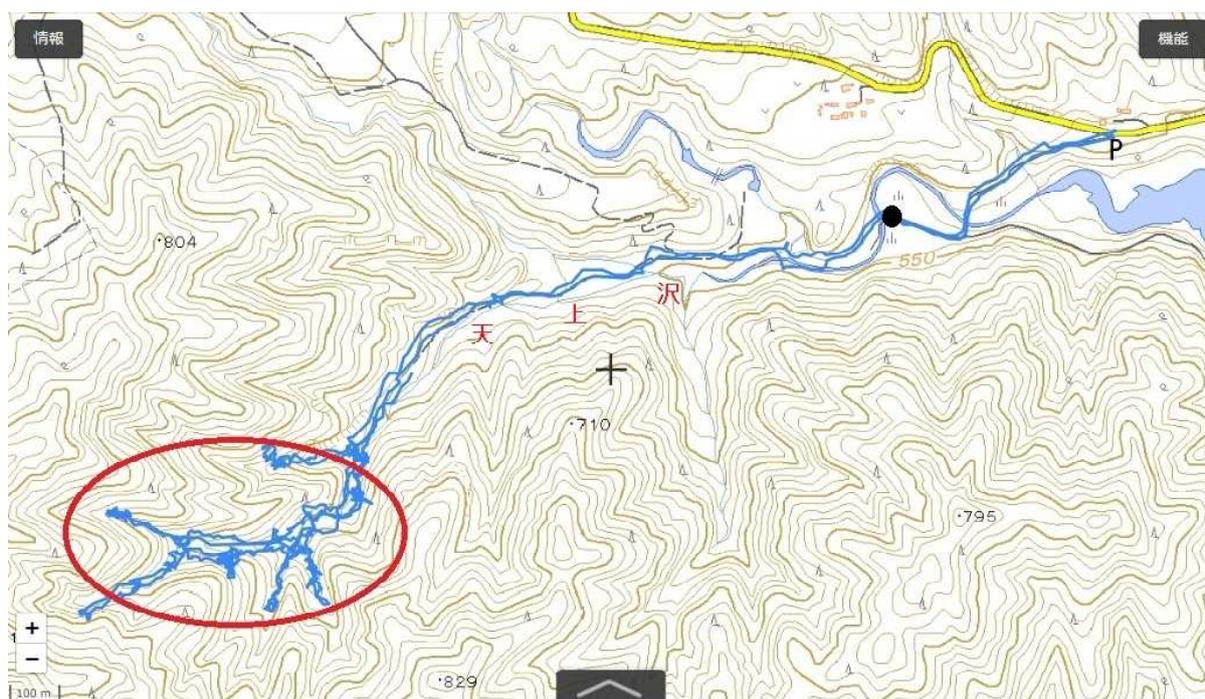
黒い部分は多分閃亜鉛鉱。

# 追探查

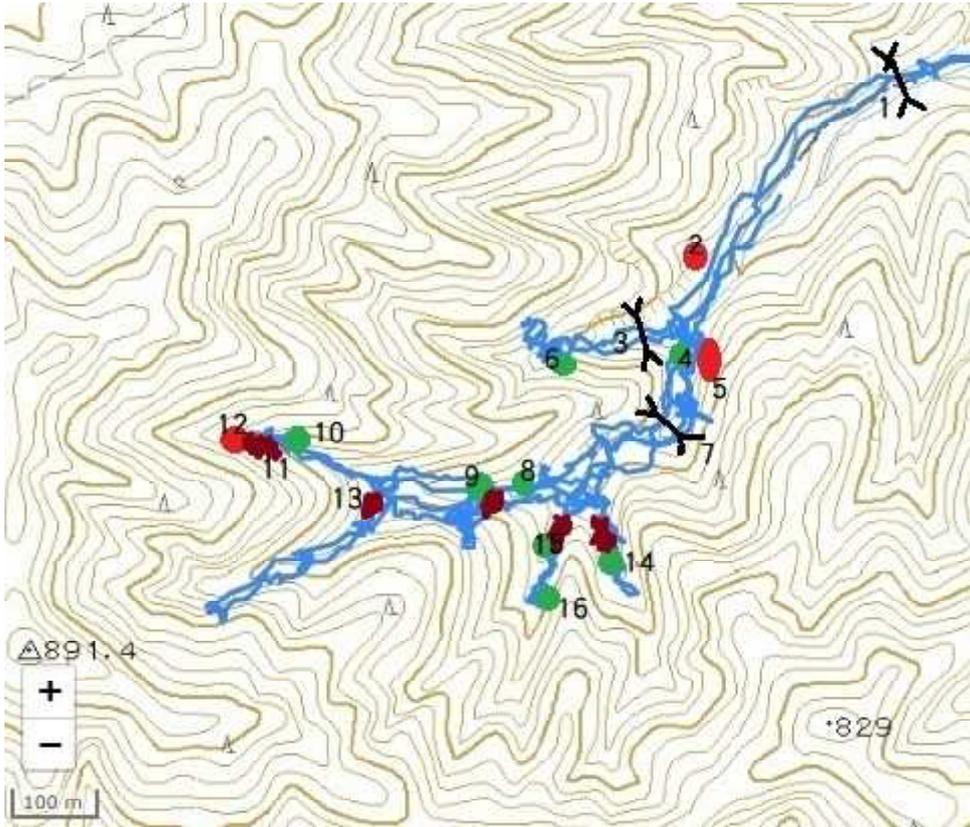
鉱山図とGPSのガーミンを持参し、前回の報告から10年ほど経過して、天上沢鉱山を数回追探查した。その結果を詳細に紹介することとした。追図1で東荒川ダム西端付近からの経路を水色線で示している。天上沢上流の赤丸付近に鉱山跡が広範囲に点在している。資料として参考文献(1)から複写した鉱山図を添付しておいた。

この鉱山の鉱種は文献(1)によれば、金、銀、道、鉛、亜鉛鉱である。鉱脈は金銀銅亜鉛含有石英脈。石英類のズリや転石に注目すれば、良い標本を見つけやすいかも。参考文献(2)には、坑道総延長は約1.4km、従業員数約60人との記述があり、結構規模の大きな鉱山であったことが知れる。

2019年3月～4月



追図1 ガーミンによる経路図。赤丸が鉱山跡。広範囲に鉱山跡が点在している。次図を参照。経路ログは、受信状況が悪かったこともあり、跳んだり跳ねたりしていたので、何回か分を切り貼りし、かつ修正もしていることに留意すること。ただ、大まかには地形図にあつてはいる。右端上部のP点が車の駐車場所。10年前にはここから約600m先の河原まで車で進んで行けた。●の所までである。今回はP点の所にゲートがあり閉じていた。歩いて行くと、林道に何本もの木が倒れており、全く手が付けられていなかった。近年、林道の手入れが行われていない場所が増えていると思っている。このゲートは二度と開くことはないと予想しているが、年々山仕事をする人がいなくなってきたるのであろう。現地まで何度か川を徒渉する必要があるが、「大水」でない限り不安はない。赤丸近くまで幅広くなだらかな林道を進むことになる。良いハイキングコースでもある、秋は絶好かも。



追図2 追図1の部分拡大図。後掲している現地の写真と対応できるようにするため。それなりの場所に番号を付けている。赤丸は鉱山施設跡、および其れ擬き。黄緑丸は坑口跡、および其れ擬き。茶色ベタは明瞭なズリ跡。

## 鉱山跡写真



番号1 砂防ダムである。林道は左岸に沿って延びている。転石を探すならば、ここから沢に降りて先に進むのも良い。



番号2 高さ2m弱の門形コンクリート脚。その後ろには数段の石垣組み。鉱石のホッパー跡か？



番号3 木製の砂防ダム。10年前はなかったような気がするが。この上流には消えかかっている坑口跡。山神坑跡。



番号4 写真中央の所に、消えかかっている坑口跡。中央下当たりから左側下に水が流れている。昭和坑跡。本論の写真と比較すると大分土砂で埋まっている。



番号5 鉦山事務所などの跡。重そうな鉄製機器、コンクリート基台、電線用ガイス等があった。



番号6 10年前は坑口跡らしく見えていた。今では辛くも入り口手前の石垣が見えるだけ。



番号7 砂防ダム。右端から乗り越えられる。



番号8の1 沢の左岸上部に坑口跡。



番号8の2 坑口から内部を覗く。正面の坑道は直ぐに閉塞されていた。左側？ 確認を忘れた。



番号9の1 沢の左岸少し上についた坑口跡。右下にズリ跡。木材が土砂に埋もれている。



番号9の2 その内部を覗く。ライトで照らすと、坑道は大きく、大分奥まで立派に残っている。旭坑と判断。鉦山図からすると大分奥まで延びているのであろう。



番号9の3 坑口付近にあったズリ。



番号10の1 沢の左岸にあった坑口



番号10の2 その内部の様子



番号11 沢に右岸にあったズリ



番号12 ズリの上流端にあった廃レール。  
この付近に坑口があったはず、が確認できず。



番号13 ズリ跡。鉾山図からするとこの付近に坑口があるはず。が、分からず。



番号14 沢の左岸のズリ。その少し上流の崩れ斜面下に坑口があったのかも。鉾山図からすると四号坑？



番号15の1 中央の小さい黒い部分が坑道跡？  
手前一带はズリ。



番号15の2 黒いところに近寄って内部を  
見る。奥は深い。



番号16の1 沢の少し上流の右岸上部の  
岸壁下に坑口跡。中央の小さい黒い所。



番号16の2 黒いところに近づいて、内部を  
見る。数m先で人工的に閉塞されていた。

参考文献

- (1)「地下資源調査報告書 第1号」、栃木県、1956年。
- (2)「塩原図幅地質説明書」、岩生、今井、地質調査所、昭和30年。

資料1 天上沢鉦山図

参考文献(1)から複写掲載。印刷では文字が見にくそうなので、赤色文字で書き込みをしている。ディスプレイ画面上で、拡大してみると、文字のつぶれが少しは改善されていそう。

